

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 K.H

- 期間 2024年3月11日～3月20日（10日間）
- 訪問都市 オーストラリア キングスクリフ
- 研修先 North Coast TAFE Kingscliff Campus

はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受け、オーストラリア薬学及び語学研修に参加しましたので、その内容について報告いたします。

1. 渡航前に考えていた自分の目標

今まで海外研修に参加できる機会はありませんでしたが、英語の自信の無さや受動的な物事の捉え方からこんな私には無理だろうと決めつけていました。しかし、就活や自己分析を行っていくにつれ、このように思い込んでしまう自分を変えたいと思うようになりました。初めての海外渡航を機に、全く新しい環境で自分を試し、自分を成長させたいと考え、「英語で積極的に発言できるようになる」ことを目標にして具体的なアクションプランを立てました。

2. その目標は渡航後どうなったか

渡航した結果、掲げた目標は達成できたと思います。現地では、積極性を向上させるために、アクションプランの通り、TAFEで先生に毎回授業後に質問し、生徒皆の前で薬剤師役の服薬指導の発表も自発的に手を挙げて行いました。また、日本でいう「空気を読む」といった習慣はやはり海外ではまず見られませんでした。察してくれることを期待するのではなく、言いたいことはきちんと口に出して伝えることに気を付けて、ホストファミリーと毎朝毎晚会話をできたので、発言することをためらうことは無くなったと思います。さらに、学校だけでなく、ホームステイ先でも、日本語は話さずにいこうと、同じホームステイ先のルームメイトと決め、まさに積極的に英語を発言せざるをえない環境で過ごしました。私のつたない英語力は少なからず上がったと思います。

3. これからの自分

初めての海外ということもあり、やはり予期せぬトラブルもありました。オーストラリアに着いた時、自分のスーツケースが見つからないだとか、クレジットカードが使えなかったとか…。これらは自力で対処できました。しかし、中には自力で対処できないものもありました。最も記憶に残っているトラブルは健康面です。私は便秘と下痢を繰り返して、特に授業に遅れるほど下痢が酷かったです。しかし、問題はそれだけではありません。下痢が治って、授業に戻ろうとしたら、TAFE では過去に大規模な下痢性感染があったことを理由に、治ったとしても文句なしに” Go home!” と言われました。授業を楽しみにしていたのに…。悔しくて思わず涙を流してしまいました。それを近畿ツーリストの添乗員に相談して、食中毒性では無いことを釈明していただき、何とか授業に出席できました。私は自力で自分の事情をうまく弁解できなかつたので、将来的にはこのような複雑で込み入った事情も英語で伝えることができるようになりたいです。

4. 医療施設見学

4.1 Pharmacy class in TAFE

普段の薬学の授業が英語になった授業です。日本と違いオーストラリアの薬剤師はワクチンを打つことができます。Danielle 先生に聞いてみたところ、オーストラリアは日本ほど薬剤師がいないそうで、薬剤師:助手=2人:8人だそうです。私が調剤事務としてアルバイトをしている薬局では薬剤師と助手の割合は半々、もしくは薬剤師の方が多いので、いかにオーストラリアで薬剤師が少ないかが実感できました。



Fig1. 自由行動時に訪れたドラッグストアの処方箋カウンター

4.2 薬学部見学 in Griffith University

オーストラリア版お薬カレンダー (Fig. 3) を一から作りました。日本のお薬カレンダーでは、もし逆さまになったらバラバラになってしまいますが、オーストラリア版お薬カレンダーは、PTP シートの様に封がされているので使い勝手が良いなと思いました。また、オーストラリアでは漢方はない代わりに、Herb (Fig. 4) があり、CYP3A4 を代謝誘導することで有名な St John 's Wort も見つけることができました。



Fig.2 大学外観



Fig.3 お薬カレンダー



Fig.4 大学の実験室にあった Herb

5. 交流体験（ホームステイなど）

日本では「謙遜が美德」とされますが、海外ではやはりそのような習慣は無いことを実感しました。ホストマザーの Susy は自分の息子である Jonah と Arlo がクリケットの試合で勝ったことを誇らしげに私に語っていることがとても印象に残りました。

6. 渡航先について（気候、生活環境など）

まず日本との違いとして一番に挙げられるのは、「季節」です。オーストラリアは南半球ですので、季節が真逆であるが故に、現地では三月で夏～秋でした。さらに驚いたことに、オーストラリアの方々は、砂浜だけでなく、なんとアスファルトでもスーパーマーケットの中でも裸足で行動していました。私もアスファルトの上を裸足で歩いてみましたが、思ったより熱くてトゲトゲして歩きにくかったです。そして、オーストラリアは日本の国土面積の 20 倍もの広さを持ちます。故に、オーストラリア国内でも州ごとに時差があります。私たちは QL 州と NSW 州をよく行ったり来たりしていたので、とても混乱しました。オーストラリア人に聞いてみると、現地の人でもやはり混乱するそうです。オーストラリア人は時間に比較的の自由だと聞きますが、時差が所以なのかもしれないですね。

7. 最後に

多国籍な生徒が在籍している TAFE。私は TAFE での昼休みに、他の教室にいる留学生にも自分から話に行きました。アラブ人、シリア人、スリランカ人、コロンビア人…。今まで触れたことの無い国々が一気に身近に感じました。シリア人に戦争について聞いたり、逆に日本の東日本大震災や福島原子力発電所について聞かれました。大阪から福島は遙か遠い土地の話。そう思い込み、福島について興味関心が全くなかったので話すのに苦労しました。遠い県でもひとたび日本を出たら、それは私たち自身の日本の事になる。海外に行って初めて、日本をもっと知らなければならぬと気付くことができました。